

赤ちゃんに必要な安全とは？

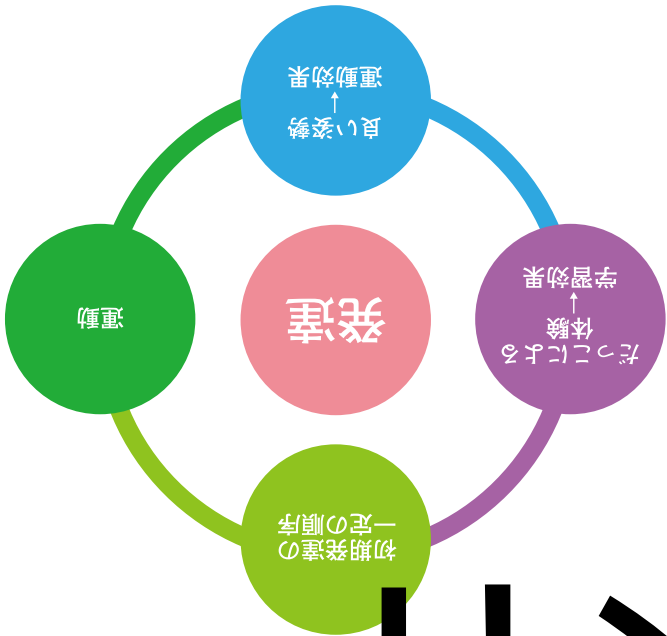
赤ちゃんの「安全」を考えると、日常生活の中で、「安全」を考えると、日常生活の中で、事故防止(落下、窒息など)がまず浮かびます。また、長期的視点では、環境汚染、紫外線、受動喫煙等を原因とする将来の健康を損なうリスクが挙げられます。これまであまり課題に挙げられてきませんが、実は悪い姿勢のたつことが長く続くことは、長期的なリスクとなります。なぜなら、たつこの姿勢は、赤ちゃんの股関節の健全な形成に関与するからです。長期的なリスクによる影響や障害はすぐには実感できないため、見落とされがちですが、赤ちゃんが成人した後の健康やかな暮らしのために、赤ちゃんの「今の健康」を維持するだけでなく、長期的な視点で、たつこの姿勢を整える「健康に育む環境づくり」をすることも親としての重要な役割です。

- ✔ 大人が身体の動きが赤ちゃんの身体中の筋肉や骨格の発達に良い刺激や影響を与え、全身コントロールを学ぶ手助けとなります。
- ✔ 赤ちゃんの五感へ刺激が加わるため、神経細胞同士の結合を促し、脳の発達へと繋がります。
- ✔ 体重を骨盤や背中全体に分散させる方法を感じることができ、運動能力とバランス感覚が育まれます。

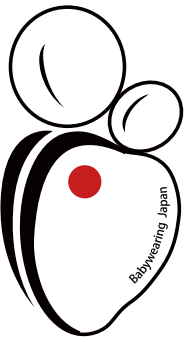
産まれたばかりの赤ちゃんは初めて体験する環境、とりわけ重力と闘いながら、自分自身で筋肉や骨格を使って身体をコントロールし、姿勢を保つことを学んでいきます。自分で身体を支えながら、リラックスし、眠り、自由に呼吸し、親とコロンコロンしたりすることは赤ちゃんにとってなかなか難しいことなのです。大きな頭、前傾姿勢の小さな骨盤、短い腕、そして両脚を身体側に引き寄せたM字開脚で仰向けで寝転がっている姿勢では、小さな身体のパランスを保つことだけで精一杯です。そこで大人に密着したよい姿勢のたつことを日々の中に取り入れてみましょう。

赤ちゃんの発達とたつこ

逆に、悪い姿勢のたつことは、発達への効果を得られないばかりか、赤ちゃんの健全な発達を妨げる可能性があります。発達には「首すわり～寝返り～腹ばい～お座り～ハイハイ～つかまり立ち～1人歩き」という一定の順序で進みますが、1つのステップをクリアするためには、よいたつこ姿勢での全身の運動が大切です。抱っこ紐の正しいつけ方や調整を意識し、快適で赤ちゃんの心身の発育を促すよい姿勢のたつこ時間を過ごしてみませんか。



サンプル



<https://babywearingjapan.jimdo.com/>

プロに相談するだっことおんぶ

プロに教わる正しく快適なだっことおんぶ。きっと子育てに役立つコツが見つかります。各地で講習会を行っておりますので、ぜひ、お問合せ下さい。

◆ ベビーウェアリング・コンシェルジュ

特定活動法人だっことおんぶの研究所認定の資格で、ベビースリング、昔ながらのタイプのおんぶひも、へこおび、抱っこ紐等の正しい装着方法をマスターし、その歴史や使用方法の指導を初心者にも分かりやすく教えることが出来る人材です。認定者の中には助産師や保育士、地域で子育て支援活動に携わる方が多くいます。



<http://babywearing.org/members/>

◆ ディ・トラゲシュレ(ベーシック)修了者 (Die Trageschule®)

世界で最も権威の高いと言われるドイツのだっことおんぶ・コンサルタント養成校です。ベーシックコースの修了者はベビーラップの基本的な巻き方、スリング、ベビーキャリア(抱っこ紐)の装着方法や選び方を伝えていきます。



<http://www.trageschule-dresden.de/trageberatung/beraterinnen-berater/asien/japan>

◆ ベビーラップ・アドバイザー®

ベビーラップ老舗のディディモスが養成する「ベビーラップ・アドバイザー®」はベビーラップ、リングスリングやメイタイを専門とするコンサルタントです。一枚布の巻き方に熟練した人材が発達やニーズを見ながら、赤ちゃんや大人に快適なだっこやおんぶを紹介します。



<http://www.didymos.jp/dakko-no-koushukai.html>

赤ちゃんの発達とだっこ

